

北海道胆振東部震災復興支援「れんごう寄席 第参卷」を開催

11月24日、安平町と厚真町で「れんごう寄席 第参卷」を開催した。

連合北海道は、昨年9月に発生した北海道胆振東部地震被害に対するカンパをはじめ、地元物産品販売などの取り組みとあわせ、「笑い笑顔」をキーワードとした支援活動として「れんごう寄席」を開催している。昨年11月から始まった「れんごう寄席」は厚真町とむかわ町の2町で開催し、今年5月は厚真町で開催してきた。今回、安平町で開催するのは初めて。



安平町では「グループホーム」と「小規模多機能型居宅介護事業所」、厚真町では「こぶしの湯あつま」を会場に、バナナの叩き売り・マジックショー・腹話術・落語などを披露した。札幌を中心に活躍するプロのマジシャン・落語家・腹話術師たちがボランティアで芸を披露したほか、連合北海道 齋藤副事務局長によるバナナの叩き売り、連合本部 逢見会長代行が落語で寄席のトリを務め、会場は笑い笑顔で溢れた。

来場者からは「来てくれてありがとう」「とても楽しかった」などの反応や涙ながらに喜ぶ姿も見受けられ、ボランティアの出演者たちも「来て本当によかった」「お金で手に入らない感動こそが最高のギャラでした」など、励まし励まされる場面もあった。

連合北海道は、今もなお多くの被災者が不安や心労を抱えている中、胆振東部地震を風化させることなく、被災地に寄り添う取り組みを継続していく。

